

# 環境モデル都市における平成28年度の取組の評価結果

<b>ニセコ町</b>	人口: 4,921人、世帯数: 2,462世帯(平成28年3月末現在) 就業人口: 2,523人(2015年国勢調査) 面積: 197.13km <sup>2</sup> (うち森林面積132.78km <sup>2</sup> )
-------------	--

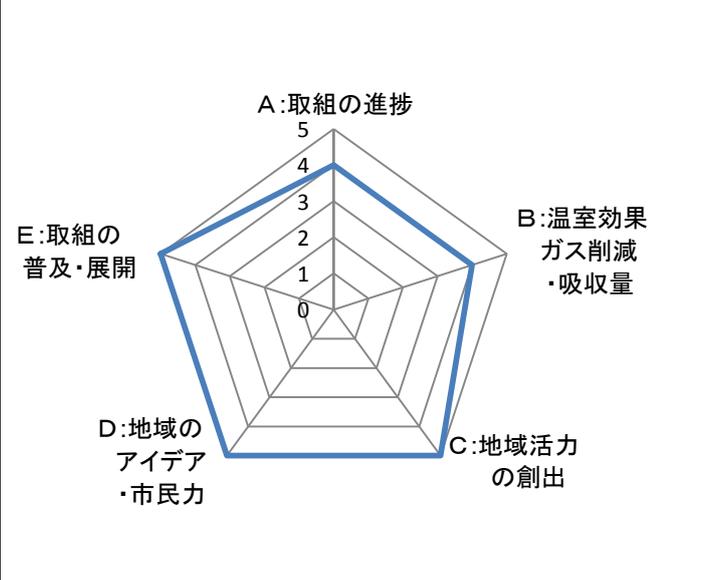
## 平成28年度の取組の総括

環境モデル都市アクションプランに掲げる取組について、概ね計画通りに進捗している。温室効果ガスの削減では、各種取組により計画を上回る792t-CO<sub>2</sub>の削減効果が得られた。

温室効果ガス排出量については、ニセコ町の地域特性を踏まえて、町民、事業者等の実態に即した積み上げ方式による調査方法を確立し、排出実態の把握・検証を踏まえ定量化した。

新たな取組として、観光事業者向けのエネルギーや省エネについての勉強会、省エネ診断を行い、観光事業者の情報共有が進み、LED照明設備、温泉排湯利用熱交換器導入など省エネの取組が進んだ。

取組の普及・展開については、多くの町民が利用する幼児センター等の公共施設での省エネ設備の導入や、外部有識者による講演等、幅広い層の町民を対象とするイベントの開催により、町民の環境意識の向上が図られた。



## A : 取組の進捗

4

### 【参考指標】

計画との比較	評点	取組数	点数	評価指数	評価区分
a)追加/前倒し/深掘り	2	2	4	算定式: ②/① *100	5
b)ほぼ計画通り	1	5	5		4
c)予定より遅れ/予定量に達せず	0	1	0		3
d)取り組んでいない	-1	0	0		2
計		① 8	② 9	113	1

### (特記事項)

- ・温泉排湯や温泉熱利用について、ニセコリゾート観光協会、アンヌプリ温泉湯心亭、ニセコ町とコンソーシアムを組み、北海道の補助を活用し、湯心亭に温泉排湯の熱交換器を導入した。今後見学の受入や情報提供を通じて、他施設への普及に努める。
- ・デマンドバスの利用者数は前年度比約1,000人減少してしまったため、次年度は乗客数を増やす工夫が必要。またデマンドバスを含め、地域公共交通の最適化を図る。
- ・民間事業者が経済産業省「地熱開発理解促進関連事業支援補助金」において、住民・温泉事業者等へ地熱開発についての基礎知識や再生可能エネルギーの意義を中心に勉強会、講演会及び事例視察を実施。
- ・役場庁舎等10公共施設について、尻別川王子水力発電所をエネルギー拠点にもつ新電力会社、王子伊藤忠エネクスと電力契約を結んだ。電気料金で年間約300万円の減額、CO<sub>2</sub>排出量についても約110tの削減となった。

## B : 温室効果ガスの削減・吸収量【平成27年度】

4

### 【参考指標】

取組による効果	(t-CO <sub>2</sub> )	(前年度比)	温室効果ガスの排出量	(万t-CO <sub>2</sub> )	(前年度比)
温室効果ガス削減量	792	4%	H27実績(暫定値)(実排出係数)	6.3	1.6%
			H27実績(暫定値)(排出係数固定)	5.5	1.9%

### (特記事項)

- ・温室効果ガス削減量については、単年度削減見込504t-CO<sub>2</sub>と比較し、792t-CO<sub>2</sub>と計画を上回る削減実績となった。部門別では、業務部門の「観光施設での省エネの取組」が最も削減量が多く、観光事業者の取組による効果が町の温室効果ガス削減に寄与している。また、家庭からの再生可能エネルギー売電実績も微増した。産業部門では、前年と同じ削減量であったが、省エネ設備導入公共施設が平成28年度より運用を開始しており、次年度は削減が見込まれる。
- ・温室効果ガス排出量については、事業者及び一般家庭へのヒアリングやアンケート結果からなるべく実態に即した積み上げ方式によって算出した結果、6.3万t-CO<sub>2</sub>の実績であった。人口が増加しており、観光業も業況が良く、基礎的なエネルギー使用量が増えている為、前年度比0.1万t-CO<sub>2</sub>(1.6%)の増加となったが、人口一人当たりでは0.22t-CO<sub>2</sub>の減となり、各種取組により着実に効果が現れている。観光分野の取組を継続するとともに、今後は水力や地熱などエネルギー源の転換など抜本的な対策が必要だと考えられる。

## C : 地域活力の創出

5

### 【参考指標】

観光客数	約1,671,000人	住宅省エネルギー改修促進補助金件数	1件
外国人宿泊者延数	204,494人	グループホーム利用者	18床
町民センター利用者数	55,351人		
有島記念館来館者数	11,778人		
ラジオニセコ出演者数	約300人		
地下水保全条例に基づく届出	4件		

### (特記事項)

・地中熱ヒートポンプが導入された施設はいずれも多くの町民や観光客が訪れる場所であり、過去に改築を行った町民センターについては利用者が年々増加しており、改築前の平成22年度と比較すると24千人→55千人で31千人の増加となっている。  
 ・積雪量が少なかったこともあり、観光客数は前年度比1.3%減となった。ニセコエリアの良質なパウダースノーなど豊かな自然環境についての口コミや多言語による積極的な情報発信を行ったことにより、外国人宿泊延数は前年度比5%増となった。国別で見ると中国、香港、台湾の順に多い。  
 ・北海道下川町、岩手県二戸市、葛巻町、鳥取県北栄町、熊本県小国町と専門的知識を有する民間団体(一般社団法人クラブヴォーバン)と連携し、各自治体で培ってきたノウハウを共有し、地域内経済好循環モデル構築へ向け、町の施策の効果検証を行った。

## D : 地域のアイデア・市民力

5

### 【参考指標】

環境審議会回数	4回	EV充電設備新設箇所	3箇所
まちづくり町民講座回数	9回	エコナイトカフェ参加者数	47名
まちづくり町民講座延参加者	313人	小型家電リサイクル回収量	4.28t
グリーン電動アシスト自転車利用	299台		
グリーン電動バイク利用	38台		
デマンドバス利用件数、利用者数	15,280件、18,445名		
ごみリサイクル率	92.4%(RDFを除くと48.9%)		

### (特記事項)

・勉強会「省エネ建築を考える～持続可能なまちづくりに向けて」を開催し、20名が参加。日本エネルギーパス協会の代表理事、クラブヴォーバン代表理事の2名による、省エネ建築による地域雇用の拡大や高齢化への対応についての講演を通して、持続可能なまちづくりの手法について理解を深めた。  
 ・まちづくり町民講座を9回開催した中で、北大CoStepと実施した「サイエンスカフェinニセコ」には67名が参加。持続可能なまちづくりに向けたドイツとニセコの挑戦を紹介し、私たちの手でつくる環境・経済・暮らしの未来を考えた。  
 ・CO2削減に向けて、まずは自分ごととして捉えてもらうことが重要であると考え、自分の生活と関わりが深く、興味がわく話題を取り上げ、行動に移すきっかけづくりを目指し、カフェスタイルで1回目は落語家をゲストに話を聞くエコナイトカフェを初めて実施した。参加者47名。

## E : 取組の普及・展開

5

### 【参考指標】

環境政策視察者数	8団体、200人		
JICA視察者数	10カ国、56人		

### (特記事項)

・ニセコ町役場には53団体、619人の視察があったが、そのうち環境モデル都市や再生可能エネルギーに関する視察者は8団体、200人であった。  
 ・特に、昨年度は札幌開成中学校の宿泊研修をエジュバケーションの一環としてニセコリゾート観光協会を受入、160名の生徒が環境モデル都市の取組について学んだ。  
 ・JICAの研修生として訪問した中南米20名、南アフリカ共和国12名、ジョージア14名、ウガンダ10名に対してニセコ町の環境モデル都市の取組などについて情報提供することができた。  
 ・ニセコこども館(学童保育施設)で、環境教室を開催、児童39名が気候変動や省エネの取組について、ゲームをしながら学んだ。

**(平成28年度の取組の評価する点とそれを踏まえた平成29年度以降に向けた課題)**

温室効果ガス排出量の増加は、人口増や観光客増加によるものと考えられるが、一人当たりでは減少している点は評価すべきである。特に観光を主軸に地域の活力を創出しつつ、同時に温室効果ガス削減でも成果を上げている点は高く評価する。ただ、観光客数や人口が増加している中での効率改善について明確に示していただき、その成果を評価に反映していただきたい。観光都市としての発展を果たしつつある成功例であり、他の模範となるため、今後は積極的な情報発信に努めていただきたい。